

GUESTS PROFILE (登壇順)



楊力州 ヤン・リーチョウ Yang Li-Chou

1969年生まれ。
高校教師を経て、台湾国立台南藝術学院音像記録研究所卒業。一貫してドキュメンタリーを制作。初期作は『I Love (080)』(1999)、『新宿駅、東口以東』(2003)等。金馬獎に出品された『奇跡の夏天』(2006)と『征服北極』(2008)、『青春ララ隊』(2011)、『拔一條河』(2013)など多くが劇場公開されている。



周美玲 ゼロ・チョウ Zero CHOU

1969年基隆生まれ。
ドキュメンタリー短編シリーズ『流離島影』(1999～2000)で監督・プロデュース。監督作品にはドキュメンタリー『コーナース』(2001)、『極端宝島』(2002)、『暗闇の視界』(2005/NHK日本賞入選)、劇映画に『Tattoo 刺青』(2007/ベルリン映画祭デビュイ賞)、『彷徨う花たち』(2008)、『花様～たゆたう想い～』(2012)等。



劉芸后 ホホ・リュウ Hoho LIU

1976年嘉義生まれ。
ドキュメンタリーや映画の撮影監督、カメラウーマン。『コーナース』では共同監督、ナレーション。周美玲監督の全ての作品の撮影を手がけ、公私に渡るパートナー。長編映画『牆』で金鐘賞の最優秀撮影賞(2007)、テレビドラマ『搏浪』で金鐘賞撮影賞ノミネート(2010)。



馬躍比吼 マーヤウ・ビーホウ Mayaw BIHO

1969年花蓮生まれ。先住民・アミ族出身のドキュメンタリー監督。世新大学映画コース卒業。先住民の文化、歴史、暮らしをテーマに作品を制作する。作品は『これぞ人生、これぞアミ族』(1998)、『請問蕃名(本当のお名前は?)』(2002)、『酒祭の男たち』(2009)、『山裡的微光(山に輝く光)』(2011)等。先住民テレビ局の代表、2012年には中華民国立法委員選挙に出馬。『ドキュメンタリーは私のやさしい武器だ。』



李道明 リー・ダウミン LEE Daw-Ming

国立台北藝術大学映画創作学科教授兼学科長、ドキュメンタリー映画監督
著作：『紀錄片：歴史、美学、製作、倫理』(台北：三民、2003)、『Historical Dictionary of Taiwan Cinema』, Lanham, MD: The Scarecrow Press, 2013.



陳斌全 チェン・ピンチュエン CHEN Pin-Chuan

朝陽科技大学伝播芸術系助理教授
著作：『A Critical History of Taiwanese Independent Documentary』, 2014, Ph.D. Thesis, King's College London, U.K.

【お問い合わせ先】

山形大学人文学部附属映像文化研究所
「2015 台湾ドキュメンタリー特集」運営委員会
TEL: 023-628-4203 E-mail: yu.tw.film@gmail.com



陳儒修 ロバート・チェン Ru-Shou Robert CHEN

国立台湾政治大学メディア学院教授
著作：『Looking at Screen Darkly: One Hundred Years Reflections of Taiwan Cinema』(in Chinese) Taipei: Bookman, 2013. "20 Years after City of Sadness: Sound, Image, Time, Space" Paper presented at "Reading Hou Hsiao-Hsien" International Conference, Japan, 2011



三澤真美恵 みさわ・まみえ MISAWA Mamie

日本大学文理学部中国語中国文学学科教授
著作：『殖民地下的〈銀幕〉—台湾総督府電影政策之研究(1895—1942年)』(台北：前衛出版社、2001年)、『「帝国」と「祖国」のほざま—植民地期台湾映画人の交渉と越境』(東京：岩波書店、2010年)



葉月瑜 エミリー・イエー Emilie YEH

香港浸會大学伝理学部映画学科(HKBU)教授兼学科長
著作：『華語電影工業：方法與歷史の新探索』(北京：北京大学出版社、2011)、『東亜電影工業：中港日韓』(台北：書林出版公司、2011)等。



最新情報は下記の公式ウェブでご確認ください。
<https://www.facebook.com/taiwandocumentary>



ドキュメンタリーに見る
現代台湾の光と影

映像は語る

1990年代以降、
台湾ドキュメンタリーは多彩な作り手とテーマを得て、
社会を映し出す鏡となった。

日本初公開を含む11作品の上映と
気鋭の研究者による発表・シンポジウムの3日間。

2015
10.9-11

山形国際ドキュメンタリー映画祭は10.8-15

遊学館 (山形県生涯学習センター)

主催：山形大学人文学部附属映像文化研究所
台湾文化部

共催：公益財団法人リソナアジア・オセアニア財団、山形国際ドキュメンタリー映画祭、
台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

協力：東京国際映画祭、台湾公共電視文化事業基金会、パッパッパ、ドキュメンタリー・ドリームセンター
後援：公益財団法人山形県生涯学習文化財団、山形市、朝日新聞山形総局、一般社団法人 共同通信社山形支局、
読売新聞東京本社山形支局、日本経済新聞社山形支局、毎日新聞山形支局、産経新聞社山形支局、
河北新報社、株式会社テレビユー山形、株式会社山形テレビ、株式会社さくらんぼテレビジョン、
山形新聞・山形放送

Documentary Speaks / Taiwan Today in Light and Shadow

PROGRAM

入場無料

10.9 FRI

01. 金馬奨と映画史から見る戦後台湾

12:15～ 「あの頃、この時」

(原題: 那時・此刻 / The Moment)

監督: 楊力州 (ヤン・リージョウ) / 2014 / 113分

中国語圏を代表する映画賞「金馬奨」の50周年記念作品。有名監督やスターの姿と並び、台湾の一般観客が語る映画体験が、半世紀の時代の証言として輝く。

日本初上映



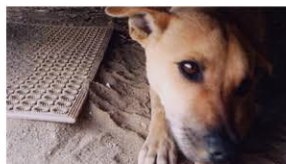
14:15～ 監督トーク: 楊力州 (聞き手: 葉月瑜 / 30分)

02. 若者たちの自分探し

14:55～ 「雑菜記」 (原題: 雑菜記 / Hard Good Life)

監督: 許慧如 (シュウ・ホイルー) / 2003 / 43分

ひとりでラーメンを作り、テレビを見ながら鍋から食べる初老の男。警備員の職場では居眠り。伴侶に先立たれた父の日常を娘が撮る。言葉少ない映像から父娘の絆と生活の愛おしさがにじむ。

YIDFF2003 アジア千波万波
奨励賞

15:40～ 「25歳、小学二年生」

(原題: 25歳、国小二年級 / The Spirit of 8)

監督: 李家驊 (リー・ジアホア) / 2003 / 60分

25歳になっても幼少の心の傷から離れられない監督が、じわじわとむしばむ自己嫌悪と決別しようとカメラを手にする。

YIDFF2005 アジア千波万波
特別賞

03. 障害と共存する

16:50～ 「築巢人 A Rolling Stone」

(原題: 築巢人 / A Rolling Stone)

監督: 沈尚可 (シェン・コシャン) / 2012 / 54分

シングル・ファザーにとって、自閉症の30歳の息子との毎日は、まるで押し上げた重石が転がり落ちる日々の繰り返し。仕事と家事に追われながら、彼との接続の瞬間に目を凝らす。

2013 台北映画祭グランプリ (百万首賞)



04. 女性・ジェンダー・セクシュアリティ

18:10～ 「コーナーズ」 (原題: 私角落 / Corner's)

監督: 周美玲 (ゼロ・チョウ)・劉芸后 (ホホ・リュウ)

/ 2001 / 66分

同性愛などLGBTの男女が昼間の仮面をはずして自分らしさを解放できるバー、コーナーズ。幻想的な映像に、台湾社会の抑圧に身を潜める者たちの孤独と愛欲が映る。

日本初上映

台湾国際ドキュメンタリー祭 2002
特別賞

19:30～ 監督トーク: 周美玲・劉芸后 (聞き手: 藤岡朝子 / 60分)



10.10 SAT

05. 震災のあとは

12:20～ 「三叉坑」 (原題: 三叉坑 / Three Fork Village)

監督: 陳亮丰 (チェン・リャンフォン) / 2005 / 144分

製作: 全景伝播基金会

1999年の台湾大震災直後から6年かけて先住民タイヤル族の小村を記録。進まない復興、出稼ぎ青年のUターン、集団移転や土地収用をめぐる悲喜こもごもの日々は、「311」後の日本にも突き刺さる。



06. 庶民と台湾の地

2005 台北映画祭グランプリ (百万首賞)

13:20～ 「無米楽」 (原題: 無米楽 / The Last Rice Farmers)

監督: 顏蘭樞 (イェン・ランチュアン)・莊益增 (ジュアン・イーツェン) / 2005 / 108分

水牛を使う昔ながらの稲作を続ける老農夫。台風や酷暑、害虫や干ばつに苦勞しながら実りの季節を迎える。WTOに加盟したばかりの台湾で大ヒット、劇場公開ドキュメンタリーの先駆け。



07. 楽しき老年時代

15:30～ 「青春ララ隊」 (原題: 青春啦啦隊 / Young at Heart: Grandma Cheerleaders)

監督: 楊力州 (ヤン・リージョウ) / 2011 / 104分

平均年齢70歳の応援団チームが、病氣や家族の反対に負けじとポンポンを振り、ダンスのステップを踏む。スポコン映画の王道。



08. 先住民映像作家: マーヤウ・ビーホウ

日本初上映

17:35～ 「これぞ人生、これぞアミ族」 (原題: 如是生活、如是 Pangcah / As Life, As Pangcah)

監督: マーヤウ・ビーホウ / 1998 / 28分

18:05～ 「酒祭の男たち」 (原題: Malakacaway 倒酒的人 / Malakacaway The Rice Wine Filler)

監督: マーヤウ・ビーホウ / 2009 / 70分

日本初上映

アミ族の長老の世界を紹介する初期の短編と、大酒飲みの通過儀礼を担う青年たちの伝統継承を描く長編。現代台湾に生きる先住民のジレンマや本音が語られる。



19:30～ 監督トーク: マーヤウ・ビーホウ (聞き手: 藤岡朝子 / 60分)



10.11 SUN

09. 異郷／故郷

10:30～ 「陳才根と隣人たち」 (原題: 陳才根的鄰居們 / Chen Tsai-gen and His Neighbors)

監督: 呉乙峰 (ウー・イフォン) / 1996 / 90分

かつて国民党軍と共に大陸から台湾に渡ってきた老人たちが暮らすのは、台北の貧しいバラック長屋だった。故郷から遠く、台湾社会からも疎外され、歴史に翻弄された老人たちの心情に迫る。



10. 講演&シンポジウム: ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影

13:00～14:20 ■ 李道明 (台北芸術大学) 「21世紀台湾ドキュメンタリーの趨勢と展望」

■ 陳斌全 (朝陽科技大学) 「1990年代以降の台湾ドキュメンタリーの特徴」

14:30～15:50 ■ 陳儒修 (政治大学) 「記録映像と原住民伝統」

■ 三澤真美恵 (日本大学) 「台湾ドキュメンタリーと移行期正義」

16:00～17:00 ラウンドテーブル: 葉月瑜 (司会・コメンテーター)、マーヤウ・ビーホウ、周美玲、劉芸后、楊力州